

野津田公園スケートパークを、利用者にとって 安全で魅力ある施設とするため、建設場所の再検討を求める請願

＜請願の趣旨＞

私たちは、町田市に、子どもや若者をはじめ、実際に利用する人にとって安全で、使いやすく、長く市民に親しまれるスケートパークが整備されることには意義があると考えています。

その一方で、現在整備が予定されている野津田公園の湿生植物園・調整池について、スケートボードというスポーツの特性と、スポーツ施設に求められる安全管理の観点から、整備場所として本当に適しているのか、改めて検討する必要があります。

1. スポーツ施設の安全は、予測できる危険を事前に管理することから

スポーツの安全管理では、「リスク」と「ハザード」を分けて考えることが大切にされています。スケートボードでいえば、技に挑戦することで転倒するなど、競技そのものに伴う「リスク」があります。一方、小石や路面のひび割れなど、事前に予測でき、取り除いたり改善したりできる危険は「ハザード」として、できる限り回避・低減することが安全管理の基本です。

つまり、競技者が挑戦することで引き受けるリスクと、施設側が事前に取り除くべきハザードは同じではありません。

だからこそ、建設前の段階で予測できる環境上の危険は、完成後の維持管理に委ねるのではなく、場所や設計によって回避・低減できないかを検討することが、安全なスポーツ施設づくりの基本です。

2. スケートボードにとって、路面環境は競技そのものです

スケートボードは車輪を使って滑走するスポーツです。一般的なスケートボードの車輪は直径約5cmと小さく、一般の公園利用では気にならないような小さな異物でも、滑走や安全性に大きく影響します。例えば、あずき大ほどの小石が一つ落ちているだけでも、車輪の回転が止まり、転倒につながる可能性があります。落ち葉やどんぐりなども同様です。

また、コンクリートのひび割れや段差など、わずかな路面状態の変化も、競技者の身体感覚やパフォーマンスに影響します。こうした路面環境の問題は、実際にスケートボードを経験した者でなければ想像しにくい部分でもあります。

請願者は、スケートボードの経験者と、スポーツトレーナーとしてアスリートの身体や練習環境、安全管理に携わってきた者であり、こうした観点から現在の整備予定地に懸念を持っています。

3. 周囲の樹木と路面環境から考えるスケートパークの適地性

現在の整備予定地は周囲を多くの樹木に囲まれており、季節によって落ち葉やどろりなどが路面に落下することが想定されます。

落ち葉などを「利用者が清掃すればよい」とするのではなく、完成後の清掃や維持管理に必要となる人員や費用まで見込み、そもそもこのような環境が、小さな車輪で滑走するスケートボード施設の立地として本当に適しているのか、また、場所の選択によって安全上のリスクや維持管理の負担を軽減できないかを、建設前に検討する必要があります。

また、現在の整備予定地には、湿生植物園として形成されてきた水辺環境があります。スケートパークとしての適地性だけでなく、現在の自然環境を大きく改変することによる影響も含め、他の場所と比較することが必要です。

4. どのようなスケートパークをつくるのかを明確にしてほしい

町田市が目指すスケートパークが、公式大会も開催できる施設となるのであれば、競技者が十分にパフォーマンスを発揮できる環境だけでなく、日常的に市民が親しみ、観客もスポーツとして楽しめる環境が必要です。

一方、実際にスケートボードを経験してきた者からは、公式大会が開催できるような大規模な施設は、技術レベルの高い競技者を想定したものとなり、必ずしも初心者や一般の利用者にとって使いやすいとは限らないという声もあります。

「公式大会ができる施設」と「市民が日常的に親しめる施設」の両方を目指すのであれば、どのような利用者を想定し、どのようなスケートパークを目指すのかを明確にした上で、その目的に適した規模、設備、立地を一体的に検討する必要があります。

以上の理由から、次の事項を請願します。

<請願事項>

現在予定されている湿生植物園・調整池での整備を一旦立ち止まって見直し、スケートボードの競技特性、安全性、維持管理、自然環境への影響等を踏まえ、野津田公園内の他の場所も含めて比較検討し、利用者にとってより安全で魅力あるスケートパークを整備できる最適地を改めて検討すること。